

学校評価特集号

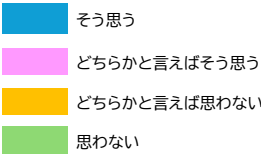
令和7年3月13日

学校の教育目標に関するアンケートにご協力くださりありがとうございます。

楯岡小学校では、学校教育目標「志 感動 笑顔 ―あきらめない ありがとう あいさつ―」を目指して、子供たちの指導にあたってきました。保護者の方と子供たちの声、そして子供たちの姿から指導の在り方を振り返り、来年度の教育計画づくりの大切な資料とさせていただきます。

この特集号では、アンケートの集計結果と、その結果から分かったことや学校としての対応についてお知らせします。

アンケート集計と考察



プラス評価が
90～100%＝◎
80～ 89%＝○
79～ 60%＝－
59%＝△

学校教育全体(保護者・教員)

			0%	20%	40%	60%	80%	100%	評価 A+B	評価 C+D	
保護者	1	学校は、学校教育目標のもと、学校行事等の学習活動で実行委員会を立ち上げるなどして、子供たちが主体となって活動する機会の充実をめざしている。							95	5	◎
	2	学校は、子供たちの立場に立って、丁寧に学習指導や生徒指導を行っている。							90	10	◎
	3	学校は、家庭や地域との連携を大切に、開かれた学校づくりに努めている。							92	8	◎
	4	学校は、学校だよりや学級だより、ホームページなどで、教育活動をよく伝えている。							96	4	◎
教員	1	学校は、学校教育目標のもと、学校行事等の学習活動で実行委員会を立ち上げるなどして、子供たちが主体となって活動する機会の充実をめざしている。							100	0	◎
	2	学校は、子供たちの立場に立って、丁寧に学習指導や生徒指導を行っている。							95	5	◎
	3	学校は、家庭や地域との連携を大切に、開かれた学校づくりに努めている。							98	2	◎
	4	学校は、学校だよりや学級だより、ホームページなどで、教育活動をよく伝えている。							100	0	◎

学校教育全体の評価は、全ての項目で90%以上となり、概ね高評価でした。

令和5年度から「自分で・自分たちで 考える 決める 行動する」をスローガンとして取組みを初め、今年で2年目となりました。自分で・自分たちで学んでいくことが楽しいと感じられるよう、教育活動の充実を図ってきたことが評価されました。

【今後も継続していく内容】

- 学校行事等の学習活動で実行委員会を立ち上げるなどして、子供たちが主体となって考え、決断し、行動する機会の充実をめざしていきます。
- 「学年担任・学級担任制」を取り入れ、一人一人の児童を複数の教員で見守るようにしていきます。
- 新しい教育への共通理解を深めていくため、学校だよりやホームページで、学校の方針や子供たちの活躍の様子を発信していきます。



学校生活(保護者・児童・教員)

			0%	20%	40%	60%	80%	100%	プラス 評価 A+B	マイナス 評価 C+D	
保護者	5	お子さんは、学校生活を楽しんでいる。	37	54	7	2			91	9	◎
	6	お子さんは、授業が分かり、学ぶことを楽しんでいる。	22	57	18	3			79	21	○
	7	お子さんは、担任やクラスのみんなから認められ、良好な人間関係を築くことができている。	27	61	11	1			88	12	○
	8	お子さんは、やりたいことや困っていることがあるときに、他の人に相談したり、話し合ったりして、実現や解決に向けて行動しようとしている。 《あきらめない・コミュニティ形成力》	20	60	19	1			80	20	○
	9	お子さんは、普段から、感想や感謝の気持ちを、他の人に言葉で伝えようとしている。 《ありがとう・コメント力》	26	58	16	1			84	16	○
	10	お子さんは、他の人にあいさつしたり、話しかけたりして、進んでコミュニケーションをとろうとしている。 《あいさつ・コミュニケーション力》	26	56	19	1			82	20	○
児童	5	学校で、楽しく生活している。	60	31	7	2			91	9	◎
	6	授業が分かり、楽しいと感じている。	45	41	12	2			86	14	○
	7	友達や先生にほめられたり、はげめられたりして、認められていると感じている。	35	48	13	2			83	15	○
	8	あなたは、やりたいことや困っていることがあるときに、他の人に相談したり、話し合ったりして、実現や解決に向けて行動しようとしている。 《あきらめない・コミュニティ形成力》	39	44	12	5			83	17	○
	9	あなたは、普段から、感想や感謝の気持ちを、他の人に言葉で伝えようとしている。 《ありがとう・コメント力》	45	42	10	1			87	11	○
	10	あなたは、他の人にあいさつしたり、話しかけたりして、進んでコミュニケーションをとろうとしている。 《あいさつ・コミュニケーション力》	56	36	6	2			92	8	◎
教員	5	児童は、学校生活を楽しんでいる。	18	80	2				98	2	◎
	6	児童は、授業が分かり、学ぶことを楽しんでいる。	16	82	2				98	2	◎
	7	児童は、担任やクラスのみんなから認められ、良好な人間関係を築くことができている。	17	71	12				88	12	○
	8	児童は、困ったことがあったときに、相談したり、話し合ったりして、解決しようとしている。 《あきらめない・コミュニティ形成力》	15	73	12				88	12	○
	9	児童は、普段から、感想や感謝の気持ちを、言葉で伝えようとしている。 《ありがとう・コメント力》	22	59	19				81	19	○
	10	児童は、他の人にあいさつしたり、話しかけたりして、進んでコミュニケーションをとろうとしている。 《あいさつ・コミュニケーション力》	20	52	28				82	28	○

▼「質問5」の自由記述

保護者	学校行事や学習参観などがあるとき。校外学習など体験的な学習があるとき。頑張りが友達に認められたとき。友達と一緒に学習したり、遊んだしているとき。実行委員会などで、自分たちが企画・運営していく活動をしているとき。など
児童	友達と一緒に学習したり遊んだりしているとき。分からないことがあって困ったときに、友達から聞いて解決できたとき。授業で、自分の意見を発表できたとき。学校行事に向けて、友達や違う学年の人と力を合わせて取り組んでいるとき。など
教員	友達と協力しながら、学習に取り組んでいるとき。自分で・自分たちで主体となって生活している、学習しているとき。時授業の中で、分かった、できたがあるとき。担当や外部講師から興味深い情報を得たり、新しい発見ができた時。など

学校教育目標を達成するための令和6年度のスローガン「3COMS※」が、保護者・児童に浸透し、意識して学校生活を送ることができています。

※「志」達成のための仲間をつくる『コミュニティ形成力』

「感動」を自分の言葉で伝える『コメント力』

「笑顔」で人とつながる『コミュニケーション力』

全体として、学年や学級、そして学校全体の子供たちの仲間づくりや、一人一人の自主性を育むことをねらいとし取り組んできたことが評価されました。特に、「質問5(学校生活を楽しんでいるとき)」の自由記述から、子供たちは友達と一緒に活動したり、外部講師から学んだりすることに喜びを感じていることが分かります。

【今後も継続していく内容】

- 外部講師を中心とした素晴らしい地域の人材や、楯山や大倉地域などの豊かな自然から体験的に学ぶ機会を積極的に設けていきます。
- 学年担任団で情報を共有しながら児童理解と教材研究を深め、より分かる授業づくりを目指していきます。



家庭生活(保護者・児童・教員)

			0%	20%	40%	60%	80%	100%	プラス 評価 A+B	マイナス 評価 C+D	
保護者	11	お子さんから学校での様子を聞いたり、家庭学習の様子を見たりする機会を設けている。	30			62		7	92	8	◎
	12	学校で配られた配付物を、お子さんから受け取り、目を通している。	35			55		10	90	10	◎
	13	お子さんは、家庭学習に取り組む習慣が身に付いている。	23			51		23	74	26	—
	14	お子さんは、学校や学級、社会のきまりを守って生活している。	33			59		7	92	8	◎
	15	お子さんは、早寝・早起きを心がけ、朝ごはんをしっかりと食べている。	32			51		16	83	18	○
	16	お子さんは、家庭で読書に親しんでいる。	12	24		44		20	36	64	△
	17	お子さんは、メディア(テレビやゲーム、タブレット等)について、ルールを守って利用している。	10		49		35	6	59	41	△
児童	11	学校での生活や勉強したことを、おうちの人に話している。	43			31		19	74	26	—
	12	学校で配られたものを、おうちの人に見せている。	60			30		8	90	10	◎
	13	家庭学習(授業の復習や予習など)で取り組んだことが、授業で生かされていると感じる。	50			38		9	88	12	○
	14	学校や学級、社会のきまりを守って、けじめのある生活ができています。	43			49		7	92	8	◎
	15	早寝・早起きを心がけ、朝ご飯をしっかりと食べている。	51			37		10	88	12	○
	16	図書館に行ったり、本を借りたりして、読書に親しんでいる。	37			36		22	73	27	—
	17	タブレットを学習の中で活用している。(意見の交流、学習のまとめ、調べ学習等)	60			27		8	87	13	○
教員	11	家庭は、児童から学校での様子を聞いたり、家庭学習の様子を見たりする機会を設けている。	13			66		21	79	21	—
	12	児童は、学校で配られた配付物を、保護者に見せている。	15			68		17	83	17	○
	13	児童は、家庭学習に取り組む習慣が身に付いている。	20			73		7	93	7	◎
	14	児童は、学校や学級、社会のきまりを守って生活している。	15			71		14	86	14	○
	15	児童は、早寝・早起きを心がけ、朝ごはんをしっかりと食べている。	22			64		14	86	14	○
	16	児童は、図書館に行ったり、本を借りたりして、読書に親しんでいる。	7			67		21	74	26	—
	17	児童は、メディア(テレビやゲーム、タブレット等)について、ルールを守って利用している。	5		51		44		56	44	△

令和6年度は、担任が一律に決める画一的な宿題から、自分で取り組みたい内容を決める形の家庭学習に取り組みました。家庭でも学習の様子を見守っていただき、継続的な取り組みになってきています。ありがとうございます。

メディア(テレビやゲーム、タブレット等)の利用については課題が残りました。学校で指導することと、家庭で指導することを明確にしながら、連携して取り組んでいく必要があります。

感染症での学級閉鎖等では、どの学級でもリモート学習が実施できたように、子供たちのICTのスキルは高まっています。授業でのICTの活用のみならず、家庭学習での効果的な活用について、引き続き指導していきます。合わせて、情報モラル教育を進め、子供たちが正しい知識を身に付け、安全に利用できるよう、家庭と連携していく必要があります。

【今後も継続していく内容】

- 自ら課題を見付け、取り組む内容を決める形の家庭学習を継続していきます。学校では、家庭学習(復習や予習)と授業が連動するように、さらに授業改善に努めていきます。
- 村山警察署の方を講師にお招きし、「スマートフォン・SNS安全教室(令和6年度は3年以上)」を継続的に実施(必要に応じて1~2年から)していきます。



- 地域での挨拶は大切なコミュニケーションの一つだが、コロナ禍を経て一気に減ってしまった。少しずつ子どもたち挨拶できる子どもが増えてきていることは感じている。挨拶を交わすことは不審者対策でもあるので、地域でも引き続き取り組んでいきたい。
- 楯岡や大倉地域に足を運んで体験を通して学ぶことは、ぜひ継続してほしい。複数回訪れることで、変化や地域ごとの違いに気づき、さらなる学びになると思う。
- コロナ禍を経て子供たちの地域行事への参加が一気に減ってしまった。そういった伝統行事にどのように目を向けてもらうか、地域としても課題である。
- 学習においてICT機器の活用が当たり前になっていて、家庭学習でも活用されていることが分かる。安全に使える資質能力の育成が必要である。
- 読書の項目が低いが、大人が読書している姿を見せているだろうか。大人がスマホを見てばかりだと、子供の読書は進まない。学校では、PTAの家庭サポート部で読み聞かせに取り組んでいただいている。各家庭でも、大人と子供と一緒に本に親しむ時間を大切にしてほしい。

今後大切にしていきたいこと

コロナ禍を通じて、教育の在り方は大きく変わり、新たな時代が幕を開けました。オンライン学習の普及により、時間的・地理的制約を超えた教育の可能性が広がる一方で、児童同士の関係づくりの重要性が改めて浮き彫りとなりました。直接的なつながりを通じて、児童は学習意欲を高め、仲間と協力する力や社会性を育むことができます。これらの時代背景と共に、アンケートの結果を踏まえ、楯岡小学校では次のことを大切にしていきます。

1 ゆとりある教育課程と集団づくり

令和元年度から行ってきた午前5時間授業を「午前4時間授業」に見直し、ゆとりある教育課程の中で丁寧な集団づくりを行います。特に4月から5月連休明けまでは早帰り日課とし、現在学校全体で取り組んでる生活班(4~5人のグループ)を軸とした社会性を育む取組を継続し、学級会等を通して、自治的な集団づくりを行っていきます。



2 地域のひと・もの・ことから学ぶ

地域のひと・もの・ことから学ぶ活動を通じ、地元への愛着や社会性を育みます。また、教員も地域の課題や魅力を積極的学にび、授業に実践的な学びを取り入れていきます。学校と地域社会のつながりを強化し、児童がより豊かな教育環境で成長できる基盤を築きます。



3 ICTの活用と情報モラル教育

学校では、デジタルとアナログの長所を生かした教育を推進します。情報モラル教育では、ICT機器を効果的に活用する力や、依存を防ぐ意識と時間管理を養います。また、家庭と連携し、SNSを含む情報発信への責任やプライバシー保護の重要性についても指導を継続していきます。

